



# 青き楓

島高だより  
平成 21 年 12 月号  
(通巻第 45 号)  
長崎県立島原高等学校  
編集：情報図書部

校長室から

## 「不得意科目は生まれつきではない」



校長 辰田幸敏

「得意科目があれば、不得意科目もある」というのが多くの島高生の現状だろう。不得意科目の克服に悩んでいる島高生も多いと思う。冬休みを前に今一度、考えてほしい。不得意と感じるようになったのはいつかを考えてみよう。高校に入ってからか、中学校の時はどうだったか。

では、「なぜ、不得意になったのか」である。その原因を考えてみることだ。授業で基本事項を習った時、欠席したり、勉強を怠けたことはないか？ 試験で一度悪い点を取り、それから劣等感に悩まされるようになったのではないか？ 試験勉強に払う努力を普通の予習、復習にも十分尽くしたか？ 兄弟や友だちがむずかしいと言っているのを聞いて、自分もそう思い込んでいないか？ などである。私は余程のことがない限り、不得意科目は何かのきっかけで作られたものだと思う。

次に、その克服の糸口を探ってみよう。

- (a) 興味は勉強の水先案内である。...その科目に興味を持てれば、勉強の能率が上がる。例えば、歴史が好きで理科が嫌いであれば、科学史の本を読んでみたらどうだろう。
- (b) 山登りに失敗したら、麓からやり直す。...中学校の時からわからないのなら、中学校の教科書に戻り、基礎から積み上げることを勧めたい。
- (c) その科目を得意な人を「先生」とする。...その科目の得意な人と一緒に勉強し、勉強法や使用参考書、ノートの取り方など学習技術を学び取ることである。
- (d) 1回で覚えるより10回繰り返す。...どんなことでも繰り返して練習すれば必ず身につく。そういう根気がないと真の実力はつかない。不得意を克服するには時間がかかる。

<本物は続く。続けば、本物になる> (人生の達人セミナー講師：平田徳男先生)

<わかる できる 身につく = 自己実現 > (昨年度の島高生のスローガン)

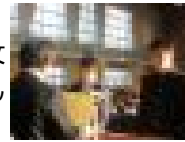


### 1月の主な行事予定

- 2日(土)～3日(日) 3年センタープレテスト
- 4日(月)～7日(木) 冬季補習(1・2年は7日のみ)
- 8日(金) 始業式
- 9日(土) 土曜講座(全学年)
- 9日(土)～10日(日) 2年中地区学習交流会
- 12日(火)～13日(水) 校内実力テスト(1・2年)
- 16日(土) 土曜講座(1・2年)
- 16日(土)～17日(日) 大学入試センター試験
- 19日(火) 特別編成授業開始(3年)
- 23日(土) 対外実力テスト(1・2年)
- 24日(日) 対外実力テスト(2年)
- 27日(水) まゆやまロード健脚大会(28日予備日)
- 30日(土) 土曜講座(3年)

### 県民表彰

本校剣道部女子とレスリング部の村上君・馬場君が県民表彰特別賞をいただきました。全国高等学校総合体育大会や国民体育大会などの各大会におけるめざましい活躍によるものです。これを励みに、これからも学校全体で文武両道に取り組んでいきます。



## 修学旅行

2 学年主任 祝 利久



五重塔と紅葉

12月8日から12日まで、4泊5日の修学旅行でした。初日は九州内の大学、研究施設等を訪問した後、新門司港へ。船中で一泊し、二日目は奈良公園での研修からスタート。現地ガイドさんの名調子に乗って、東大寺、春日大社を巡りました。午後は73台のタクシー班に分かれて京都市内研修。紅葉の見頃はやや過ぎた感がありましたが、古都の風情を充分味わうことが出来たようです。三日目は新幹線で東京へ移動し、洗練された都市空間・六本木ヒルズと情緒ある上野公園・浅草方面とに分かれてのクラス別研修。その後、ディズニーランドへ。生徒たちは思い思いの方法で楽しみ、おなじみのパレード、花火まで満喫しホテルに入りました。四日目は首都圏の企業(約30企業)・大学(約20校)、つくば研究都市に分かれての班別研修。期間中唯一の雨天、気温もぐっと下がった中、生徒たちは試行錯誤しながら東京の街を移動し、仕事と学びの世界を肌身で感じ取って無事帰着することが出来ました。一方、懸念されたインフルエンザに関して、マスク着用や手指消毒など行いながらの旅でしたが、やはり高熱を発する生徒が多く現れ、最終日までに10名余が陽性と診断されました(連絡を取りながら、帰途出迎えていただいた保護者の皆様、ご心配をお掛けしました)。このような状況であったため、最終日の都内研修の一部をカットし体調を整えてホテルを出発、お台場散策の後、予定に沿って帰りました。

修学旅行を通して、学年、クラス、個人...様々なレベルで成果と課題を発見できました。楽しいことも、大変なこともたくさんあり、「学び」の多い旅でした。63回生にとっても、自分の存在(健康、進路)や人とのつながりの意味を考える機会になったでしょう。また、引率職員団にとっても、いざというときの判断や対応の重要性を痛感させられた5日間でした。今後の学年経営に活かしていきたいと思います。(「修学旅行まとめの文集」を編集する計画です。お楽しみに。)

### 「生徒感想から」

修学旅行を終えて一番感じたことは、私たちの生活は沢山の人の人たちのお陰で成り立っているということです。この修学旅行だけでも、費用を出してくれた両親を始め、先生方やJTBの方々にお世話になりました。その他にも、バスの運転手さんやガイドさん、ホテルの従業員の皆さんなど、私たちが見えない所でも沢山の人の支えがあって、この修学旅行が最高に楽しいものになりました。

東京では、警視庁を訪問しましたが、人々の生活の安全と平穏を守るために、犯罪対策に努められていました。このように、私たちの生活の全てが働いている人たちによって支えられていることを改めて感じ、自分も将来、他人のために働きたい、働かなければと思いました。

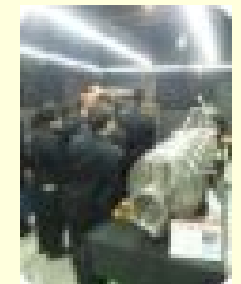


楽しかった TDL

(早稲田大学までの道のり、地下鉄に母子が乗ってきたときに、若い女性が席を譲るという温かい場面に出会いました。また、地下鉄から早稲田大学までの道を女の人に聞くと、詳しく説明してくれたうえに途中まで一緒に歩いて案内してくれました。東京は他人に関心がない人が多いのでは、と思っていたので、優しい人と知り合えて安心しました。)



鹿と戯れる  
(奈良公園)



東京での研修

## ♥ 歳末助け合い街頭募金 ♥

【生徒会指導部 森下 史也】

12月16日・17日に行われた歳末助け合い募金活動では、非常に多くの募金が集まりました。校内での活動に加えて、エレナ島原店、ダイエー島原店、ウィルビーで行った校外での活動においては、参加した生徒たちがそれぞれ声を張り上げて募金をお願いしていました。厳しい経済状況の中、昨年以上に集まった募金は22日に生徒会が代表して長崎新聞社に提出に行きます。みなさんのご協力ありがとうございました。

今回参加させて頂いた街頭募金では、経済的に厳しい今の世の中においても、小さな子供からお年寄りの方まで通りがかったほとんどの方から「寒いのにご苦労様」「頑張ってるね」という温かい言葉と心のこもった募金を頂くことができ、合計金額も昨年度を大きく上回るもので、大変嬉しく思いました。私自身にとってもこの2日間の募金活動はとても貴重な経験で、募金に協力して下さった方々に心から感謝したいです。

私は、初めて募金を集める立場で街頭募金に参加しました。現在の世の中は不況であるにも関わらず、「気持ちだけ」と、小さな子供からお年寄りの方々まで、いろいろな人の心の温かさを感じました。また、昨年を上回る金額であったようで、募金を集めた側として「歳末助け合い募金」にご協力して下さった方々へ感謝したいです。二日間だけの活動であったけれども、前に述べたことを実感でき、自分にとって良い経験となりました。

校内募金 62,879円 + 街頭募金 129,646円 = 計 192,525円

ご協力ありがとうございました



## 1学年ボランティア活動

を12月10日(木)に行いました。

「乳幼児ふれあい体感学習」班は、愛児保育園とわかさ園保育所を生徒が作った「アンパンマンメダル」をおみやげに訪問しました。子供たちとふれあい、子育ての楽しさや難しさを感じたようです。

「清掃ボランティア」班は、一番街アーケードと島原駅周辺の清掃作業を行いました。道路に張り付いたガムの除去や草取りなど、小雨の降る中みんなで頑張りました。生徒の感想と活動の様子です。



まず、子どもたちはすごいなあと思いました。誰かが話をするときにはきちんと聞き、何か活動をするときには一生懸命に取り組むなど、基本的なことがきちんと出来ていたからです。私達高校生は、年を重ねるにつれ、そういった基本的なことを忘れてしまっているのではないかと感じました。また、子どもたちと一緒に体を動かしたり、食事をとったりと、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

この体験で学んだことを活かし、これからの学校生活を送っていきたいと思います。

私は普段アーケードを利用しませんが、ガムの吐き捨てが目についたことに驚きました。ガムのごびり付きを剥がす作業は思ったより大変で苦労しましたが、何とか綺麗にすることが出来ました。これらの作業は、誰かがしなければならないと思ったのと同時に、普段は地域の方が清掃してくださっていることに感謝しました。

島原は自然の豊かさが誇りです。自然を綺麗に保てるように、私たちが住んでいる町から綺麗にする必要があります。今回は、清掃という形で地域に貢献でき、よい経験になったと思っています。



アーケードの溝の中もきれいに！  
島原駅前の除草作業  
島原駅のトイレ掃除



読み聞かせ  
もちつき  
アンパンマンメダル  
も喜んでくれました



## 冬季休業中の生活について

【生徒指導部】

冬休みはお正月気分なども加わり、ややもすると気が緩み、生活の乱れによる問題行動や不慮の事故等も懸念されます。

つきましては、学校では日ごろから生徒たちに対して、下記のことについて指導していますので、ご家庭でもご協力くださいますようお願いいたします。

### 1 充実した生活を送ろう。

将来の夢や進路について考え、学習課題や読書に取り組む。  
また、心身の鍛錬に努め、疾病は休業中に完治する。



### 2 良心に恥じない行動・態度を心がけよう。

服装・容儀の端正に心がけ、男女交際については高校生としての節度を保つこと。

携帯電話の使用目的を誤らないように心がける。なお、本校では携帯電話の学校への持ち込みは許可していません。

### 3 休業中の登下校について

制服・制靴で登校する。また、部活動は午後7時の下校時間を厳守する。

授業や補習等をやむをえず遅刻・欠席する場合は保護者を通じて必ず連絡する。

### 4 緊急連絡について

万一、事故・事件等が発生した場合は、直ちに学級担任または学校へ連絡する。

## ボランティア活動

サッカー部が12月6日(日)と22日(日)の練習後、グラウンド周辺の清掃活動を行いました。

落ち葉が風に飛ばされ散っていましたがきれいになりました。

ご苦労様でした。



## 島原地区高等学校PTA連合会秋季研修会

・特別支援学校

【PTA担当 荒木良太】

去る11月28日、「高め合い、支え合う魅力あるPTA活動をめざして」を大会テーマとして、平成21年度島原地区高等学校・特別支援学校PTA連合会秋季研修会が島原市のホテル南風楼で開催されました。

まず、各種委員会では、小・中・高の垣根を越えた連携のあり方や高校生の厳しい就職状況への対応などの様々な問題に対して、活発な協議が行われました。続く全体会では、「このごろ思うこと」と題して、佐世保実業学園長で前佐世保南高等学校校長の藤原善行先生による講演が行われました。先生ご自身の体験から得た教育観・人間観にもとづくお話は迫力とユーモアにあふれ、ひたむきに生きることの大切さについて、あらためて気づかされるものでした。「PTA活動は子どもを通じた大人社会づくりの社会運動である」と藤原先生はおっしゃっています。来年度も、ぜひ多くの保護者のみなさんのご参加をお待ちしています。